

船舶事故調査報告書

平成26年1月9日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）
委員 庄司 邦昭
委員 根本 美奈

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成24年10月30日 04時00分ごろ～11月1日 18時15分ごろの間）
発生場所	不明（青森県大間町大間港～北海道えりも町襟裳岬 ^{えりも} の南南東方沖の間）
事故調査の経過	平成24年11月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が行方不明のため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 長代丸 ^{ちやうよう} 、4.8トン AM3-36785（漁船登録番号）、個人所有 10.68m (Lr) × 2.94m × 1.00m、FRP ディーゼル機関、243kW（動力漁船登録票による）、平成7年5月15日
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年8月20日 免許証交付日 平成23年8月15日 (平成29年2月4日まで有効)
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成24年10月30日04時00分ごろ、まぐろ一本釣り漁のため、大間港を出港した。 まぐろはえ縄漁船の船長は、07時15分ごろ、操業を終えて大間港北西方約4～5海里付近を同港へ向けて南南東進中、右舷前方に北～北東進する本船を認め、本船の前方を通過した際、まぐろ一本釣り漁船のふだんの操業海域から少し離れていると思ったが、そのほかには、特に、本船の異変を感じることはなく、大間港へ向けて航行を続けた。 船長の家族は、船長が、ふだんの帰宅時刻を過ぎても戻らないことから不審に思い、船長の携帯電話を呼び出したが、応答がないため、16時40分ごろ、所属漁業協同組合（以下「漁協」という。）に電

	<p>話連絡を行い、漁業無線による本船への通信を依頼した。</p> <p>漁協は、漁業無線で本船を何度も呼び出したが、応答がなく、未だ本船が大間港へ帰っていないため、操業中の各漁船に情報提供を求め、17時30分ごろ海上保安庁へ通報した。</p> <p>海上保安庁の巡視船、僚船等による捜索が行われたが、本船及び船長は発見されなかった。</p> <p>捜索中の海上自衛隊航空機は、11月1日14時45分ごろ、襟裳岬の南南東方60km付近において、本船と思われる小型漁船を発見し、その後、海上保安庁の航空機が本船であることを確認した。</p> <p>海上保安庁の巡視艇は、18時15分ごろ、本船に接近して確認したところ、本船は、無人で船体に衝突痕等はなく、主機が運転状態で微速前進しており、操舵室内に携帯電話が残されていた。</p> <p>本船は、巡視船にえい航されて北海道浦河町浦河港へ入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、水温 約18℃</p>
その他の事項	<p>本船は、ふだん、大間港沖でまぐろ一本釣りの操業を行っていた。</p> <p>漁協に所属するまぐろ一本釣り漁船は、ふだん、早朝に出港して昼間に操業を行って夕刻に帰っており、そのほとんどが1人乗りであった。また、漁協に所属するまぐろ延縄漁船は、ふだん、夕刻に出港して夜間に操業を行って早朝に帰っていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、10月30日04時00分ごろ大間港を出港した後、ふだんの帰宅時間を過ぎても船長が戻らず、家族が船長の携帯電話に架電しても応答しないことから不審に思い、16時40分ごろ漁協に電話連絡を行い、漁協が本船に漁業無線で呼び出したが、応答がなく、その後、11月1日18時15分ごろ、襟裳岬の南南東方沖において、巡視艇が本船は無人であることを確認したことから、この間において、船長が落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が大間港を出港した後、船長が落水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業無線や携帯電話を使用し、漁協及び自宅との定時連絡を行うことが望ましい。